

海はきれいになったのか？

栽培推進部 菊池康司

およそ 10 年ぶりの水産技術センター勤務も 3 年目となりました。ご存じかと思いますが、勤務地は城ヶ島にあり、職場の目の前は海です。私は比較的転勤が多く、城ヶ島勤務はだいたい 20 年前と、10 年前、そして今回が 3 回目の勤務になります。当然、それぞれ勤務しているときは昼休みや工作中（時々です）に城ヶ島の海を見えています。最近「あれ？」と気づいたことがあります。それは、夏場でも「海の底」が見えていることです。目の前の海はいわゆる海岸ですから、水深は数十センチから数メートルの深さです。20 年以上前、最初の城ヶ島勤務時には、夏場の海は緑色に濁っており目の前の海底が見えた記憶はほとんどありませんでした。10 年前も今ほどはっきり見えた記憶はありません。

海水が不透明になる原因の一つは植物プランクトンの量にあります。冬は海水温が低いので、植物プランクトンの量が少ないので海水は比較的透明です。しかし、夏になると海水温が高くなり植物プランクトンが多く発生します。そのため海水が濁り海底が見えない状況が続きます。例外的に夏場でも海底が見えるのは黒潮が相模湾に突っ込んできたときでした。黒潮は暖かいのですが栄養塩類が少なく植物プランクトンはあまり発生しません。実際そのときの海水温を見てみると急に上昇していることが確認できました。そのため海の色が透明になっただけで「ああ、黒潮が突っ込んできているんだな。」とわかったものでした。しかし、今回の転勤後、一年中海の底が見えることが多く、海水が濁ると「東京湾の奥の方の水が出てきたのかな？」などと考えてしまいます。海水は見た目では 20 年前に比べものすごくきれいになっています。

一方で、「東京湾の貧酸素水塊の生物への影響」という業務があります。貧酸素水塊というのは、海底の有機物が分解される際に酸素を消費するため、生物が正常に生活できないほど海水中の酸素がなくなってしまう水域のことをいいます。前回の勤務時には、貧酸素状態は東京湾の奥の方の話で神奈川県ではそれほど問題視されていませんでした。しかし、現在では、マコガレイやシャコなどの本県にとって重要な水産資源が減少している要因の一つではないかと考えられるほど深刻な問題になっています。海はきれいになっているのに魚が住めなくなっているというよくわからない状況です。

神奈川や東京の河川、河口域でアユの遡上や二枚貝復活のニュースが 10 年以上前から話題になり、きれいな海を取り戻しているように伝えられます。その一方で、東京湾のシャコやマコガレイが漁獲されなくなり、底層は酸素のほとんどない状態が拡大していることがわかってきています。つまり、目に見える海はきれいになったのに、目に見えない深い海の状態は悪くなっています。豊かな東京湾を取り戻すために、なぜこのような状態になったのかを解明し、改善方法を考えていくのが現在の仕事です。

浜辺にはお宝がいっぱい！

企画資源部 草野 朱音

今年の4月に入庁いたしました草野朱音（くさのあかね）と申します。現在は、三浦半島の先端・城ヶ島にある水産技術センターで、東京湾の貧酸素水塊や貝毒プランクトンに関する業務を担当しております。初めて踏み込む「貧酸素水塊」や「貝毒」の研究の世界にどきどきわくわく（たまにビクビク）する毎日ですが、精一杯努めてまいりたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

さて、我が勤め先は周りを大自然に囲まれています。少し歩けば、浜辺に出られる素敵な環境です。この浜辺をふらりと歩くのが私の日々の楽しみです。

「ビーチコーミング」という言葉があります。「beach（浜辺）」＋「combing（くしで髪をとかす）」という言葉の成り立ちのごとく、「くしで髪をとかすように、浜辺をくまなく探す」というのがビーチコーミングです。では、何を探すのか？答えは、浜辺に流れ着いたものはなんでも！



↑ タカラガイ



↑ タカラガイとビーチグラス



↑ フジツボ



↑ ウニの殻



↑ 先客がいることも…

上の写真は私がビーチコーミングで拾ったものです。様々な模様が美しいタカラガイ、水色や緑色の瓶のかけらが波によって削られたビーチグラス、歯ブラシ立てに使えるフジツボ、トゲのとれた小さなウニの殻。どれもこれも世界に1つしかない私だけの宝物です。特にタカラガイに関しては、熱心なコレクターが国内外に沢山いて、びっくりするような高値で取引されることもあるようです。浜辺で拾った小さな貝に数万円の価値が…、なんて夢みたいな話が本当にあるのです。

城ヶ島はもちろんのこと三浦半島にはビーチコーミングに最適な場所が沢山あります。ビーチで自分だけのお宝を拾ったら、三崎の美味しいマグロをおなか一杯食べて、広大な海を眺めながらゆっくり温泉につかる、という三浦ならではの楽しみ方もできます。

そして、忘れてはいけない何よりも大切なことが1つ。海も浜辺も大自然の一部であり、決してなめてかかっちゃいけない、ということです。どんなにお天気が良くても、突然大きな波に足をすくわれることはありますし、視界の悪い夜や風の強い嵐の日などは絶対にビーチコーミングに出かけてはいけません。くれぐれも安全第一で、ぜひ自分なりの浜辺のお宝探しを楽しんでいただければと思います。

最後までお読みいただきありがとうございました！